

い。だが然し現実に於ける全従業員の日常利益擁護の爲の闘争が本部の積極的指導下に行動化へと発展せし場合、吾々の闘争不参加支部は行動を以て具體的に闘争に参加し得ること、諸君の中央委員会に宣言して、当面本部が闘争しつつある改造ボギー車問題は当然に新たなる要求を提起し全従業員の同意として闘ふことに同意する。然し吾々支部代表者は本部の指導が交渉から大衆行動へ発展せしめる具體性を見極めた瞬間から行動を以て一致せしめるであらう事を確言しておく。

終りに諸君の中央委員会に出席せざる理由は冒頭の理由と現在進行しつつある東交統一懇談会が成功するまでは大会当時の態度を持續することが正しいからである。

故に大会不参加支部は正式なる中央委員としての出席を遠慮し代表を以てその有する不参加支部の意思を諸君に傳へ、切に日常闘争の活潑なる指導を望むものである。

七月七日

不参加全支部

藤田一派の大体以上の如き意向に対し、本部派は、昭和八年度定期大会を繰上げる意味に於ての臨時大会開催が、組合統一化の爲の必要條件であると云ふなれば敢て大会を持つことに反対するものではない。尙更にその爲、六月十三日の臨時大会が大局から観て失敗であったことに對する聲明書発表の要求に對しても應ずることを辞するものではない。然し開催すべき大会は現本部に依つて行ふことを條件とするものであると飽く迄統一合流に向つて邁進の爲には多少の譲歩は甘受するまでの程度を示すに至つて居る。

今後如何に両派の交渉が進展するものなるかは予断し難いところであるが、大体に於て来るべき年次大会を機として合同すべく、其の同現在までの行懸りを如何に巧妙に解消するかに就いて統一協議会小委員会を中心に折衝を繼續するものと思惟せられる。

最後に現在市電従業員内部に流れてゐる思想傾向の種々相に就て簡単に述べる。

先づ左翼運動を観るに、昭和六年九月滿洲事變の勃發以來、我が國社会運動界を颯靡した日本主義或は國家社会主義思想運動の影響と、徹底的取締り檢舉等の爲、昭和二、三年の頃から市電内部に侵